



環境

虫の“会話”で害虫退治

●●● 仲間同士の「オイをおとり」に

言葉を持たない虫たちはどうやって会話をしているのでしょうか。

セミやコオロギのように鳴き声で会話をしている虫がいますね。そのほかに、私たちには感じられない「におい」を出して会話をしている虫もいます。このにおいを「昆虫フェロモン」といいます。

○昆虫フェロモンについて

昆虫フェロモンには、アリの通ってきた道を知らせる道しるべフェロモン、「みんな集まれ!」というときに使われる集合フェロモン、「危ない!逃げろ!」というときに使われる警報フェロモンなどがあります。性フェロモンは、多くの場合、メスがおいを出して、オスを引き寄せます。虫の種類によってフェロモンの成分が違つので、別の虫が間違えて引き寄せられる心配ありません。オスは敏感に、このにおいを感じ取ることができます。たとえば、一匹のハスモンヨトウ（ガの仲間）のメスが出すフェロモンは、数十m風下にいるオスを引き寄せます。もちろん私たちには感じられません。

○農業への利用

いま、昆虫フェロモンは農業での利用が進んでいます。害虫がいちゅうのフェロモンと同じような物質を人工的に合成して、害虫のいる畑に置いておくと、オスは「近くにメスがいるぞ!」と近寄ってきます。そして呼び寄せたオスを、粘着テープでくっつけたり、水でおぼれさせたりして捕まえます。オスはメスと会うことができず、子孫を残せないで、害虫の数を減らすことができます。また、昆虫の種類ごとにフェロモンも違つので、農業に役立つ虫（たとえば、害虫を食べる虫）には影響がありません。このように、これまでよりも、もっと環境に優しい農業を行うのに役立っています。

